資料

昭和二十年九月二十七日

第一軍需工廠配属　東京帝国大学文学部勤労報国隊報告書

解　題

私の手許に一部あったこの報告書が、東京大学史史料室にはないとのことであったので、寄贈することにした。

昭和十八年六月に学徒戦時動員体制確立要綱が閣議決定されたことがあってのことだろうが、同年十月、文学部に入学し、いわゆる「学徒出陣」せず学内にとどまっていた者に対し、同十月下旬には農学部実習場の千葉県検見川農場に一週間の勤労動員があった。そして、翌十九年になると、三月一日から二十五日まで静岡県岡部町の光泰寺に宿泊して耕地改良の為の暗渠排水施設をつくる勤労作業に動員された。ついで六月から七月まで一ヶ月余り千葉県豊富村（現習志野市）の各農家に一―二名ずつ分散し、その農事を手伝う作業に動員された。夏には都内の工場に短時日動員されたこともあったが、また十月下旬から十二月初めまで千葉県の大和田町（現八千代市）の農家の農作業手伝いに動員された。

その合間を縫って授業が行われたのであったが、この間、八月二十三日には学徒勤労令が公布されていた。

そして二十年一月から、この報告書どおりの勤労動員となったのである。

中島飛行機株式会社の三鷹研究所に動員された理由は、知るところではないが、現在、国際キリスト教大学の敷地となっているその跡地には、われわれが勤務した建物の一部が本館として現存している。この三鷹研究所は新しい飛行機の設計とその試作機をつくる機関であった。従って、機体・発動機・設計・総務の四部門があり、狭いながらも工場もあった。しかし、我々が配属されたのは、多くが総務部であり、機体部や発動機部でもそのなかの事務部門であった。入所したころには、キ87の試作をしていた。聞くところに拠ると、一万メートルの上空を飛んでくるB29にたいしてその高度まで上昇できる戦闘機がなかったので、ジェットエンジンを持ち一万メートルまで上昇できるものを作っている（勿論機密事項であった）とのことであった。二月中旬この三鷹研究所も空襲爆撃されるにいたり、東北の横黒線（現北上線）沿線の岩盤の堅い地層に横穴をほって機械を疎開し製作を続けることになった。この疎開事務にわれわれ学生は妻子のいない身軽さもあって勇躍従事したのであった。

第三代隊長の齋藤健さんは昭和十六年度入学で、私どもよりも年輩であったが、重度の弱視の方で、動員当初より入所されていたが、私は黒沢尻で存じ上げるようになった。黒沢尻に来られて（勤労課）まもなく、隊長になられ、その仕事も多端をきわめたので、会社が現地で採用した勤労課の高橋玲子さんを秘書とした。われわれは羨望の眼で見ていたのだったが、彼女の補佐なくしては、細かい人数の統計などを含むこのような報告書はできなかったであろう。哲学科の齋藤さんがよく思索して立案し、高橋さんがよくその手足となってデーターを集め、企画課の吉田顕子さんがタイプに打つという作業のながれを、岩手地区経過報告のデーターを提供した私は身近で見ていた。

敗戦後の混乱期に、わずか四十日たらずでこの報告書をまとめられたエネルギーは何処にあったのか、またその作成の意図はなんであったのかを、戦後間もなく脳腫瘍で鬼籍に入ってしまわれた齋藤さんと語り合うことが出来ないことは、まことに悔しく残念なことである。

匆々の間に五部ほどまとめての印字で、印字の不鮮明で解読困難なところが多く、その文中には古典語が多く打字者の知識を超えるものがあって脱字や誤字も多い。よって明らかに誤字と思われるものは私の一存で訂正し、脱字は推定したが、その責任は私にある。昭和十八年十月国史学科に入学した者たちの三鷹研究所への勤労動員の経験については、東大十八史会編『学徒出陣の記録』（中公新書　昭和四十三年八月刊）を参照した。

この報告書が作成され、東大当局に提出されてから半世紀以上をへて、今回この紀要に収録されるようになったことは、関係者として感無量のものがあるし、更にはすでに亡くなられた方々の鎮魂にもなろうかと思う。そしてこの記録が戦時中の学生の勤労動員の一端と動員学徒の姿を伝える一資料になればと、希うものである。

菱刈　隆永
（昭和十八年十月
文学部国史学科入学
二十二年九月卒業）

〔校正注〕

××　菱刈による校正・解読。なお明かな誤字には××を附けなかった。

＊　原文空字にて推定し難いもの。

○○　原文のまゝ。秘密による○○の記号。

●　原文の印字不明瞭のため解読できないもの。

なお、隊員の氏名については、入学者名簿（大学史史料室にあるもの）によって訂正した。

〔表紙〕

昭和二十年九月二十七日

極秘

第一軍需工廠配属

東京帝国大学文学部勤労報国隊報告書

〔本文〕

東京帝国大学文学部勤労報国隊ニ関シ別紙ノ通リ御報告申上候

昭和二十年九月二十七日

第一軍需工廠配属

東京帝国大学文学部勤労報国隊々長

東京帝国大学文学部哲学科　昭和十六年度入学

斉藤　健　印

東京帝国大学

文学部々長　戸田　貞三　殿

報告内容

一、主旨

二、隊員全員名簿

三、隊組織

（イ）隊組織変更経過

（ロ）役員職掌

四、動員概況報告

1　概況説明

2　諸般説明

（イ）出動状況

（ロ）配置、移動状況

（ハ）健康状況

（ニ）空襲ニ依ル罹災状況

（ホ）経理、厚生状況

一、経理関係

二、厚生関係

（ヘ）求学状況

五、動員経過報告

（イ）総括

（ロ）各地区報告

六、所見

一、主旨

昭和十六年十二月八日大東亜戦争勃発シ国民勤労令ノ発布ニ伴ヒ東京帝国大学文学部勤労報国隊（同法令適用除外学生）ハ昭和二十年一月十九日旧中島飛行機株式会社三鷹研究所ニ動員セラレ爾後七箇月余或ハ武蔵野ニ或ハ遠ク東北ノ地ニ営々努力報国ノ誠ヲ尽ス

昭和二十年八月十四日同戦争終結ニ関スル大詔降リ同月二十日（東京地区）二十五日（東北地区）勤労動員解除セラル。其間隊員ノ動

行ヲ記録ニ留メ斯動員ニ関スル報告ヲ為スト共ニ東京帝国大学々生ノ戦時ニ於ケル至誠ヲ永ク大学史ニ残サンガ為斯報告書ヲ編ス

二、隊員全員名簿

役名	学科	入学年度	氏名
初代隊長	倫理	一七、一〇	内木健夫
第二代隊長	国史	一七、一〇	松尾陽吉
第三代隊長	哲学	一六、四	齋藤　健
三鷹地区支隊長	仏文	一八、一〇	松下和則
田無地区支隊長	国文	一七、四	伊利　武
幹部	国文	一七、四	青木正己
〃	英文	一七、一〇	石田　仁
〃	国文	一八、一〇	今井源衛
〃	倫理	一八、一〇	浅野一郎
〃	英文	一八、一〇	中村喜夫
隊員	国文	一八、一〇	大矢武師×
〃	〃	〃	安井元久
〃	〃	〃	和田正武
〃	〃	〃	久保島繁夫
〃	〃	一九、一〇	小林　正
〃	〃	〃	黒野郷八郎
〃	国史	一六、四	目崎徳衛

役名	学科	入学年度	氏名
隊員	国史	一八、一〇	黒住　武
〃	〃	〃	菱刈隆永
〃	〃	〃	榎本宗次
〃	〃	一九、一〇	永井秀夫
〃	〃	〃	飯田　肇
〃	〃	二〇、四	橋元正一
〃	支哲	一八、一〇	内田一郎
〃	〃	一八、一〇	中里義夫
〃	〃	一九、一〇	今村典志雄
〃	〃	二〇、四	鈴木忠雄
〃	東洋史	一七、一〇	岡田光生
〃	〃	一七、一〇	荻原弘明
〃	〃	一八、一〇	遠藤　滋
〃	西洋史	一九、一〇	藤原　浩×
〃	〃	二〇、四	小杉山清
〃	〃	〃	小林義榮
〃	倫理	一七、一〇	豊福正信
〃	〃	〃	虎岩清和
〃	〃	〃	赤澤正敏
〃	〃	一八、一〇	長戸路千秋
〃	〃	〃	天谷　正
〃	〃	〃	坂倉　孝

役名	学科	入学年度	氏名
隊員	倫理	一八、一〇	井澤　純
〃	〃	一九、一〇	伊藤順之進
〃	〃	〃	浅賀秀夫
〃	〃	二〇、四	大村正雄
〃	心理	一七、一〇	小口忠彦
〃	〃	〃	進藤雅郎
〃	〃	一七、一〇	太田順副
〃	〃	一八、一〇	安倍北夫
〃	〃	一九、一〇	草川　誠
〃	〃	〃	高澤俊雄
〃	社会	一七、一〇	吉田基二
〃	〃	一八、一〇	稲葉博文
〃	〃	二〇、四	白石眞三
〃	美学	一七、一〇	住友　望
〃	〃	〃	柳　宗玄
〃	教育	一八、一〇	冠　郁夫
〃	〃	二〇、四	小林俊雄
〃	英文	一七、一〇	國枝武次郎
〃	〃	〃	宇佐美邦雄
〃	〃	〃	佐藤　偉
〃	〃	一八、一〇	郷　裕弘
〃	独文	一六、四	福原　甫

役名	学科	入学年度	氏名
隊員	独文	一七、四	是枝達郎
〃	〃	〃	白鳥郁郎
〃	〃	一七、一〇	村井欣太郎
〃	〃	〃	嶋中鵬二
〃	〃	一八、一〇	關　楠生
〃	〃	〃	池田　重
〃	〃	〃	宮川聖之助
〃	〃	一八、一〇	今井　寛
〃	〃	一九、一〇	村田宇兵衛
〃	〃	二〇、四	小山邦一
〃	〃	〃	望月芳郎
〃	哲学	一七、一〇	古賀照一
〃	〃	二〇、四	中林康之
〃	仏文	一七、一〇	三富　功
〃	〃	一七、一〇	川村克己
〃	〃	二〇、四	金田達雄
〃	〃	二〇、四	田中貴美夫
〃	言語	〃	三浦朱門
〃	教育	二〇、四	高橋豊治 注イ

他氏名不明　十一名

〔注イ　高橋豊治は、原文佐藤豊治とあり、55頁上段では学科・入学年度不明とあるが、名簿により、教育学科、二〇、四入学の高橋豊治と推定した。〕

三、隊組織

動員当初格段ノ隊組織アラザルモ隊員各地派遣ニ伴ヒ相互連絡ノ必要上逐次隊組織ノ編成ヲ見ル

（イ）隊組織変更ヲ以下述ブ

（一）第一回組織（昭和二十年一月十九日）

初代隊長、倫理学科　内木健夫 ―――― 隊員

（二）第一回変更（昭和二十年三月十五日）

隊長　倫理学科　内木健夫 ―――― 三鷹地区隊員

―― 田無地区支隊長

国文　伊利　武 ―――― 隊員

（三）第二回変更（昭和二十年四月十五日）

幹部　係（五月十一日設定）

国史　松尾陽吉

- 国文　青木正己　機体関係
- 英文　石田　仁　発動機関係
- 国文　今井源衛　勤怠
- 英文　中村喜夫　会計
- 仏文　松下和則　厚生
- 三鷹地区隊員
- 田無地区支隊長
- 国文　伊利　武 ―――― 隊員
- 三島、宇都宮地区

二代隊長

（四）第三回変更（昭和二十年五月十六日）

三代隊長
哲学　齋藤　健

三鷹地区支隊長
仏文　松下和則

幹部

国文　青木正己
英文　石田　仁
国文　今井源衛
英文　中村喜夫
仏文　松下和則
倫理　浅野一郎

係

機体関係
発動機関係
勤怠
会計
厚生
連絡

隊員

田無地区支隊長
国文　伊利　武

兼　岩手地区支隊長
哲学　齋藤　健

秋田地区支隊長
国史　松尾陽吉

三島、宇都宮地区

隊員

（五）第四回変更（昭和二十年六月十六日）

三代隊長
哲学　齋藤　健

三鷹地区支隊長
仏文　松下和則

英文　石田　仁
国文　今井源衛
英文　中村喜夫
仏文　松下和則
倫理　浅野一郎
国文　伊利　武

多摩地区隊員

発動機関係
勤怠
会計
厚生
連絡

隊員

兼　岩手地区支隊長
哲学　齋藤　健

秋田地区支隊長
国史　松尾陽吉

三島、宇都宮地区

隊員

（ロ）役員職掌

（一）動員当初ヨリ五月十六日ニ至ル迄ハ隊長ハ所属隊員ノ入所、退所並ニ出勤状態等動員ニ関スル事務ヲ担当シ大学当局ヨリノ指令及大学当局ヘノ報告並ニ連絡ニ当ル

（二）昭和二十年六月十六日（第四回変更）以後

1　隊長ハ大学当局ヲ代表シ各支隊長ヨリノ報告ニ基キ隊全般事務ヲ統括ス

2　隊長ハ毎月一回上京シ適宜幹部ヲ召集シ諸般事項ニ関シ報国隊トシテノ態度ヲ評決動員ニ関スル全責任ヲ負フ

3　各支隊長ハ管轄地区隊員ノ動員ニ対スル事務一般ヲ処理シ月別経過報告ヲ隊長ニ為ス

4　幹部ハ三鷹地区支隊長ノ事務多忙ナルヲ以テ各職掌ニ於テ之ヲ補佐シ隊長岩手地区常勤不在中ハ支隊長ノ諮問機関トナル

5　隊長不在中ハ三鷹地区支隊長、及幹部会ノ決定事項ヲ隊長名ニ依リ施行

6　大学当局ヘノ連絡一括三鷹地区支隊長之ヲ為ス

四、動員概況報告

1　概況説明

大東亜戦争激化ニ伴ヒ戦時特別教育令ノ発布ヲ見ルニ至ルヤ学友相継イデ戎衣ヲ纏ヒ学徒勤労協力令ノ施行セラルヽニ及ブヤ学園ヲ出テ勤労ニ従事ス独リ生等体躯ノ虚弱ナルヲ以テ軍務ニ服シ得ズ或ハ出テ生産ノ衝ニ当ルヲ得ズ空シク拱手学園ニ留リ将来報国ノ学術進行ヲ夢見テ赤門ヲクゞルノ日ヲ重ヌ、然ルニ昭和十九年末月勤労動員ノ命ヲ拝スルヤ其ノ病弱ヲ犯シテ同研究所動員入所ヲ見ルニ至ル時ニ内木健夫隊長以下四十五名其ノ当初ニ当リテハ職場ノ都心部ヨリノ遠隔通勤時ノ錯綜、会社事務ノ未経験等、体力ノ自信ナキ生等ニハ報国ノ念盛ナルモノアルモ持続的奉仕ニ対スル危惧ノ拭ヒ去ルヲ得ザルモノアリ

生等ノ任務斯所ノ特殊使命ヲ惟フトキ其ノ重キヲ加ヘ各般ノ困難ヲ犯シテモ仮令其ノ身ハ病床ニ斃ルヽ事アリトモ最高学府ノ面目ヲカケ勤労動員ノ実ヲ揚ゲザルベカラズトノ決意ヲ秘カニ定ムルニ至ル会社事務勉学ノ緒ニ着クヤ其ノ学識其ノ識見ハ良ク短日月ニシテ会社事務ノ認識ヲ得概汎（ママ）ナル学究心ハ良ク同所ノ指導的原理ノ把握ニ達スルヲ得タリ。或ハ所属上司ヘノ斬新的意見ヲ建策シ或ハ同所ノ悪弊ヲ除去シ或ハ同所ノ勤労力ノ結集ヲ計リ或ハ工員相互ノ親睦ヲ深メ或ハ学術研究ノ資料ヲ呈ス殊ニ同研究所東北疎開拡充計画ノ議起ルヤ率先単身遠隔僻地ノ雪ヲ踏ミ或ハ友ノ後ヲ追ツテ事業推進ニ従事ス

学徒結集勤労成果ノ昂揚等其ノ精神的感化ノ及ボス所当勤労報国隊ヲ中心トシテ同研究所ノ勝利ヘノ道ノ開拓ノ途近カリシヲ感ゼシムニ至ル、生等ノカヽル言動ハ同研究所上下層ヨリ称讃トナリ中島飛行機株式会社航空金属田無製作所ヨリノ隊員召聘ノ申出ヲ見ルニ至ル其ノ間気候ノ寒冷ト体力ニ比スル事務ノ多忙、相継グ

空襲罹災ニ依ル精神的疲労ノ増加、責務ニ対スル忠實ハ勤労意欲ノ高度ヲ以テシテモ遂ニ疾病ノ悪化ヲ見ルニ至ル者アリ病床ニ呻吟セル者出スニ及ブハ誠ニ口借シキ限リナリトハ雖モ内木健夫隊長ヲ始メトシテ相継グ応召、入営者ノ増加ヲ見ル隊ノ光栄トナス所ナリ

伊利武ヲ支隊長トナセル田無分遣隊ハ其ノ動員当初ニ於ケル受入側ノ無理解斯隊員ノ会社事務ノ不認識、加フルニ勤労報国ノ精神ノ欠如等内木隊長、伊利支隊長ノ心痛努力ニモカヽハラズ動員ノ日ヲ重ヌルモ其ノ成果揚ラズ延イテハ同製作所従業員ノ白眼ヲ背ニ感ズルニ及其ノ非ハ自他共ニ半バスト判定セラルヽモ勤労報国隊ノ呼称ニ鑑ルニ生等ヒトシク慚愧ニ耐ヘズ松尾隊長ヲ経テ生ノ隊長トナルヤ隊組織ノ決定見タル後皇国興廃ノ重大時局ニ鑑ミ有為ナル学徒ノ徒労ヲ嘆キ他方最高学府ニ汚名ヲ被ルヲ恐レ新旧隊員ノ交流、全体的把握ニ依リ新隊員ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムル策シ本年六月田無分遣隊ノ三鷹研究所吸収ヲ見ル他方宇都宮製作所ニアリテハ分遣隊員ノ努力功ヲ奏シ同製作所勤務ノ各種学徒ノ結集成リ航空兵器ノ生産ハ従業員ヨリ勤労学徒ノ手ニ委ラルヽハ勤労動員ノ成果ノ極ト云フベク文学部勤労報国隊ニ其ノ名ヲ連ヌルモノ最モ喜トスル処ナリ東北ノ地ニアリテハ建設拡充追々軌道ニ乗リ派遣隊員ノ労苦其ノ結晶ヲ見ル残業・徹夜ヨク其ノ任ヲ遂行セルモ長期病床ニ着ク者ヲ出サズ各地ニ分散各々良ク其ノ任ニ耐ヘ、秘カニ激化セル空襲下ノ帝都ヲ偲ビ学友ニ思ヒヲハセ剰ヘ肉身ノ罹災セルモ帰ラズ私情ヲ抑ヘテ業ニ勤シムハ其ノ真情誠ニ悲壮ナルモノアリ東北ノ風土ニ合ズ食糧ノ欠乏ニ耐ヘ蒼白痩躯角帽ヲ載ケル姿ハ現地従業員ノ脳裏ニ深ク刻印セシ事ヲ確信ス

本年七月本学部勤労動員係、印度哲学科中村助教授、第一軍需工廠常勤教授正式就任ヲ見、新隊員ノ能率低下ニ対スル対策ヲ講ジ戦局緊迫ニ件フ敢闘意識ノ昂揚、勤労動員ノ意義ノ徹底、報国隊名誉ノ回復ヲ策ス概シテ述ブレバ新隊員ハ学園ニ其ノ日浅ク低薄ナル高校生的色彩ニ濃ク全体ヲ忘レ自己ニ固執シ己ヲ責メズシテ他ヲ呪ヒ極言スレバ憂国ノ途ヲ誤ル。其ノ非ノ是正ヲ見得ズシテ終ルハ其ノ責ノ生等旧隊員ノ側ニアルヲ感ジ各々其ノ反省ヲ求メ其ノ眼ヲ開カシメ其ノ身ニ体セル学識技能ヲ十全発揮セシメンガ為勤労意欲ノ昂揚ノ第一段階トシテ荒涼タル同研究所ノ空地開墾ヲ決ス、眼ヲ遠ク東北ノ地ニ転ズレバ疎開計画其ノ完了ノ域ニ達シ拡充計画ヘノ転換ノ日近キニ向フ、諸般ノ困難ヲ犯セル第一次計画ハ現地従業員ノ第一段階終了ニ伴フ疲労ヲ招キ全機能発揮ヲ目的トセル第二次計画ノ実施遂行ノ気運ヲ全ク見ズ之ヲ憂ヘテ該地区派遣隊員ハ進テ特殊企画ノ着手ヲ決シ総テ顧ズシテ企画完了ノ日ヲ迎フル迄解除セザル長期合宿ヲ数日ノ後ニ迎フルノ日、昭和二十年八月十四日、畏レ多クモ戦争終結ノ大詔降ル回顧スレバ半歳ニ渡ル動員ハ学園ニ見得ザリシ貴重ナル体験ヲ与ヘ実践面ニ投写セシ理論ノ展望ヲ見、爾後学究ノ指針決定ニ多大ナル力ヲ加ヘ生等今後ノ勉学ノ一新礎石タルモ勤労報国ヨリスレバ体力ノ虚弱技倆ノ薄弱、与ヘラレシ者ノ十全發揮ニモ達シ得ズ良否各々半バスルト雖モ其ノ成果ヲ見得ズシテ終末ヲ見ルハ邦家ニ対シ、大

学当局ニ対シ又受入側三鷹研究所ニ対シ心中ヨリ頭ノ垂ルルモノアリ

昭和二十年八月二十日斯動員解除セラレ残務ノ整理ヲ終ヘテ帰校復学、更生新日本ノ建設ノ勉学ノ途ニ就カントス

2　諸般説明

（イ）出勤状況

（一）昭和二十年一月二十五日石井企画課長、内藤勤労課長、内木隊長協議ノ結果本隊員ノ勤務内規左ノ如ク決定セラレ同月二十六日ヨリ施行セラル

勤務内規

1　出勤時間　八時三十分（同年三月ヨリ七時三十分）

退所時間　十七時（同年三月ヨリ十七時三十分）

右ハ原則ニシテ隊員ノ通勤、健康状態ニ依リ各課長個別懇談ヲナシ各々適宜之ヲ定ム

2　事務能率ヲ計リ各課長ハ適宜配属隊員ノ指導ヲナスモノトス

以上

（二）動員状況ヲ概括スレバ其ノ開始ハ冬季ニ在リ而シテ又同研究所ハ都心部ヨリ遠隔ノ地ニアリ隊員ノ住所大半通勤一時間乃至二時間ヲ要ス加フルニ出勤退所時ノ交通状況ノ混雑ハ虚弱ナル隊員ノ健康ニ多大ノ疲労ヲ齎スモ動員当初ニ在リテハ出勤率極メテ高度ナリキ而ルニ発病若クハ空襲時ニ於ケル交通機関ノ機能停止ニ伴ヒ出勤率逐次低下ヲ示ス

五月ニ及田無地区隊員ノ会社事務ノ不理解ハ上記事情ト相俟テ出勤率ノ最低限ヲ示スニ至ル

他方、岩手、秋田地区ニ在リテハ其ノ特殊使命ニ鑑ミ同地区隊員一同ノ奮起ニ依リ極メテ高度ノ出勤率ヲ示ス

以下地区別出勤率ヲ記ス（数字ハ各々百分率ヲ示ス）

1　概況

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	平均
八八	八四	七八、七	七六、五	六三、六	七七	八四、五	八五、二	七九、六

2　地区別出勤率

地区／月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	平均
三鷹	八八	八四	七九	七四	六六、八	五二	六二	六五	七一、一
田無〔注ロ〕			三六	四〇	××二八				三二、七
岩手			一〇〇	一〇〇	九八	八〇	一〇〇	一〇〇	九六、三
秋田					一〇〇	七六	七六	七六	八二
三島宇都宮			一〇〇	九二	九四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九七、七

〔注ロ　田無地区の数字は印字不鮮明にて、計算も合わない。〕

(ニ) 個人別出勤状況

(A) 無遅刻、無欠勤、無早退

哲学科　昭和十六年四月入学　斎藤　健

社会学科　昭和十八年十月入学　稲葉　博文

「註」欠勤一日アルモ空襲ニ依ル交通機関ノ破壊ナルヲ以テ皆勤トス

(B) 皆勤ノ者　二%

欠勤　十日ノ者　一〇%

欠勤　二十日ノ者　四五%

欠勤　三十日ノ者　一〇%

欠勤　三十日以上ノ者　一五%

無出席　一八%

(ロ) 配置状況

昭和二十年一月二十一日第一回配属部課決定シ爾後入所動員解除(入営、応召、学内動員、)他地区転勤、他部課転籍ニ伴ヒ逐次隊員配置状況ノ変更ヲ見ル

此処ニ動員期間中各月末ニ於ケル配置並ニ移動状況ヲ示ス

(1) 配置状況

配　置　表　　自　一月十九日　至　八月二五日

4				3						2			1			月別／区別
〃	〃	機体	総務			発動機	〃	機体	総務	発動機	機体	総務	発動機	機体	総務	部名
水沢	黒沢尻	〃	三鷹	三島	田無	三鷹	黒沢尻	〃	三鷹	〃	〃	三鷹	〃	〃	三鷹	工場名
												3			2	部長室
1	2		3						6			6			4	企画
			1	1	1				1			1				庶務
			1						2			2			2	防衛
	1	1	3		3	1	1	1	5	1	1	7	1	1	7	勤労
			3						3			4			4	厚生
			7						7			4			1	運輸
			2						2			2			2	営繕
			1						1			1			1	保健
																整理
			1						1			1			1	青校
			4				2		5			7			5	経理
			2						2			3			3	管理
			2						4			6			6	調弁
																設計
						1				1			1			研究
		3						3			3			2		部品
		2						2			2			2		組立
1	3	6	30	1	4	2	3	6	39	2	6	47	2	5	38	計
12			30	1	4	2	9		39	2	6	47	2	5	38	累計
				55						55			45			総計

5										4						月別／区別
		〃	発動機	〃	〃	〃	〃	〃	機体				発動機	〃	機体	部名
三島	田無	湯沢	三鷹	横手	岩谷堂	水沢	黒沢尻	多摩	三鷹	宇都宮	三島	田無	三鷹	横手	岩谷堂	工場名
																部長室
						1	3		2							企画
1	3	2	1								1	2				庶務
																防衛
	4	1	2				1	2	1	1		4	1			勤労
			2						1							厚生
			4						2							運輸
			1						1							営繕
			1													保健
									2							整理
									1							青校
			2	1	1									1	1	経理
	2											4				管理
									1							調弁
			1													設計
			1										1			研究
									1							部品
									1							組立
1	9	3	15	1	1	1	4	2	13	1	1	10	2	1	1	計
1	9	18		22						1	1	10	2			累計
51										56						総計

月別／区別	5	6													7				
部名		機体	〃	〃	〃	発動機	〃	〃	〃	〃	〃			機体	〃	〃	〃	〃	
工場名	宇都宮	三鷹	多摩	黒沢尻	水沢	岩谷堂	横手	三鷹	湯沢	三島	宇都宮	三鷹	多摩	黒沢尻	水沢	水沢	水沢	水沢	岩谷堂
部長室																			
企画		2		4	1							3		4					
庶務								4	2	1									
防衛								2											
勤労	1	7	2	1				4	1		1	5	2	2	1				
厚生		1						3											
運輸		2						4				2							
営繕		1						1											
保健								1				1							
整理		2										1							
青校							1												1
経理							1	2											1
管理								1											
調弁		2						2				2							
設計								1											
研究								3											
部品		1										1							
組立		1										1							
計	1	19	2	5	1	2	1	28	3	1	1	16	2	6	1	1	1	1	2
累計	1	30						31		1	1	29							
総計		63										57							

8										7						月別／区別
		〃	発動機	〃	〃	〃	〃	〃	機体				〃	発動機	機体	部名
宇都宮	三島	湯沢	三鷹	横手	岩谷堂	水沢	黒沢尻	多摩	三鷹		宇都宮	三島	湯沢	三鷹	横手	工場名
																部長室
							4		3							企画
	1	2	4									1	2	4		庶務
			2											2		防衛
1		1	4	2		1	2	2	5		1		1	4	2	勤労
			3											3		厚生
			2						2					2		運輸
			1											1		営繕
			1						1					1		保健
									1							整理
					1											青校
			2		1									2		経理
																管理
			1						2					1		調弁
			1											1		設計
			2											2		研究
									1							部品
									1							組立
1	1	3	23	2	2	1	6	2	16		1	1	3	23	2	計
1	1	26		29							1	1	26			累計
57																総計

(2) 移動状況

移動表

自一月十九日
至八月二五日

月別／区別	部別	入所	転籍	解除 入営、応召	解除 学内動員	解除 長欠	月末 現在員
1	総務	38					38
	機体	5					5
	発動機	2					2
	計	45					45
2	総務	9					47
	機体	1					6
	発動機						2
	計	10					55
3	総務		-5	3			39
	機体		+3				9
	発動機						2
	田無	4					4
	三島	1					1
	計	5	-2	3			55

月別／区別	部別	4							5						6		
		総務	機体	発動機	田無	三島	宇都宮	計	機体	発動機	田無	三島	宇都宮	計	機体	発動機	三島
	入所				6		1	7		2	6			8	9	15	
	転籍	-3×	+3×					0	+13	+14				24ママ	2		
解除	入営、応召	6						6			7			7	1	2	
解除	学内動員								3					3			
解除	長欠															1	
月末	現在員	30	12	2	10	1	1	56	22	18	9	1	1	51	30	31	1

月別／区別		部別	宇都宮	計	機体	発動機	三島	宇都宮	計	機体	発動機	三島	宇都宮	計
			6				7					8 注ハ		
		入所		24	2			2	2					2
		転籍		2	3 +1	-1				3 +1	-1			
解除	入営、応召			3	2	4		6	6	2	4			6
解除	学内動員				2			2	2					
解除	長欠													
月末	現在員		1	63	29	26	1	1	57	29	26	1	1	57

〔注ハ　8月は、五、動員経過報告（イ）総括によると異動がないので、7月と重複していると思われる。〕

（ハ）健康状況

本隊員ハ総テ学徒勤労動員令乃至、国民勤労令ノ適用範囲外ナルヲ以テ本来其ノ健康極メテ不良ナルモ上記「出勤状況」ニ於テ示セル如ク其ノ勤務態度既シテ不良ナラス通勤勤務状況加ルニ天候ノ不良ニ伴ヒ隊員中ニハ欠勤者続出シ中ニハ病状悪化同研究所保健課ノ配慮（要注意者ニ対スルバター等ノ栄養物ノ配給）ニモカカハラズ長期欠勤者数名ヲ出シ為ニ学内動員ニ配置転換動員解除セラレタル者五名ニ及ベリ然レ共他方健康不良者ナル本隊員中ヨリ入営、応召ニテ動員解除セラレタル者＊[注ニ]名ヲ出セルハ当隊ノ名誉トモ言フベシ

隊員中任務遂行ニ責任ヲ感ゼシム者激務ニ堪ヘ遠距離出張残業深夜事務、徹夜等ヲ行ヒ動員ノ日重ナルニ従ヒ更ニハ空襲ニ依ル精神的、肉体的ニ疲労ノ増加、食糧事情困難ニ依ル栄養補給ノ困難等ヲ原因トナシ本年七月、八月ニ於テハ其ノ疲労極メテ濃ク岩手秋田地区派遣隊員ヲ除イテハ概シテ事務能率低下ヲ示セリ

因ミニ隊員ノ病名ヲ挙クレバ肺浸潤最モ多ク其ノ四五％ヲシメ肋膜加療中ノ者三五％其ノ他小児麻痺畸形、神経痛、眼病等アリ

〔注ニ　この空字について。「五、動員経過報告」中の記事から、入営・応召者数をひろうと、3月3名、4月5名、6月3名、7月7名、計18名である。42～44ページの移動表では、3月3名、4月6名、5月7名、6月3名、7月6名、8月6名とあり、8月は記事中に記載がないので7月の重複と考えられ、また5月7名はすべて田無地区の数字で、田無地区の応召者の記事はないので、（49頁上段十五日参照）それらを除くと、4月と7月の数に異同があるが、総計は18名となる。よって、この空字は十八・田無地区を加えると二十五と推計できよう。〕

（ニ）空襲ニ依ル罹災状況

昭和二十年二月十六日、十七日艦載機襲来、同研究所内ニ被害アリシモ隊員一同無事。同日ヲ初トナシ勤務中空襲セラル、事十数度ニ及モ全ク事故ヲ見ズ

同年三月九日夜半帝都空襲セラル焼失地区広範ニ渡リ隊員中住居ヲ焼失セル者ヲ出ス爾後空襲ニ依ル罹災者続出シ全焼若クハ半焼全隊員ノ八十％ニ及ブ。罹災者中ニハ蔵書、研究成果等勉学資料ノ完全ナル焼失ヲ見タル者少カラズ

（ホ）経理厚生状況

（一）経理関係

1　本隊員ハ学徒勤労動員令ニ依リ報償金月額七十円支給サル尚欠勤十五日以上ヲ越ユル場合ハ日割計算トナス

手当及空襲ニ依ル罹災者ニ対スル給与ハ総テ同研究所正員（書記）並支給セラル

2　昭和二十年七月十五日ヨリ応召、入営者ニ対シ祝金トシテ金十円也ヲ贈呈ス

3　倫理学科昭和十七年入学「ハ」勤労課虎岩清和、本年五月二日肺浸潤悪化ノ為入院ス経費扶助ノ為隊員中有志ヨ

リ月額金五円也ヲ徴集シ之ニ同研究所従業員中同君応援者ヨリノ見舞金ヲ合セテ虎岩清和君援護資金トシテ贈呈ス（贈呈者氏名、金額ハ之ヲ省略ス）

（二）厚生関係

1 同研究所ニ於ケル配給物資ハ同従業員並之ヲ配給セラル

2 空襲ニ依ル罹災者ニハ特定物品従業員並ニ之ヲ配給セラル

3 大学当局ヨリ帝大新聞其ノ発行都度各隊員ニモレナク配布

4 大学当局ノ手ヲ通ジテノート小版二冊有償ニテ配給セラル

5 岩手地区ニ於テ学生寮ノ設置方工場側ニ依頼セシモ實施ヲ見ズ

（ヘ）求学状況

1 三鷹地区ニ於テハ本年六月以降毎月二回隊員懇談会ヲ開催シ各々所感ヲ発表シ又各部課責任者、教授若クハ助教授、名士等ノ列席ヲ求メ広ク知識ノ吸収ニ力ムレドモ空襲ノ激化ニ伴ヒ其ノ実行セラル、ハ僅カニ二回ノミ

2 岩手地区ニ於テハ専門各学科ヨリノ時局若クハ実務ノ批判研究発表会ヲ計画スレドモ実現ニハ至ラズ

3 配属各部課ニ於テ一般従業員並ニ配属隊員ニ対シ専門学科ノ講義講読ヲナセシ者有リ

国文学科伊利武ノ萬葉集講読、倫理学科萬葉集講読。国史学科黒住武、菱刈隆永史学講義、其ノ他独文講読、句会、茶事等有リ

五　動員経過報告

（イ）総括

昭和二十年一月

十二日　東京帝国大学文学部学徒勤労動員令適用外学生約百五十名、東京都北多摩郡三鷹町字大沢一五〇九番地中島飛行機株式会社三鷹研究所ニ於テ第一次身体検査

十三日　第二次身体検査、戸田部長ノ訓辞アリ

十七日　東京帝国大学文学部事務室ニ於テ被動員者氏名発表（氏名ハ二十一日参照）

十九日　午前十時入所式、内藤勤労課長挨拶、戸田部長代理挨拶、内木隊長宣誓　午後第一次入所教育、石井企画課長誘導ノ下ニ所内見学

二十日　第二次入所教育、石井企画課長同所概要説明、長田防衛課長訓話、内藤勤労課長訓話、吉田整員係長学徒動員ニ関スル訓話並ニ内規指示

二十一日　勤労報国隊（総員四十五名）各課配属、配属課名並ニ氏名左ノ如シ

配属課名	学科名	入学年度	氏名
勤労	倫理	一七、一〇	内木健夫
部長室	国文	一八、一〇	今井源衛

配属課名	学科名	入学年度	氏名
部長室	独文	一七、四	是枝達郎
企画	国史	一八、一〇	黒住武
〃	〃	〃	菱刈隆永
〃	〃	一九、一〇	永井秀夫
〃	社会	一八、一〇	稲葉博文
防衛	独文	一七、一〇	村井欣太郎
〃	倫理	〃	豊福正信
勤労	〃	〃	虎岩清和
〃	哲学	一六、四	齋藤健
勤労	倫理	一八、一〇	長戸路千秋
〃	心理	一七、一〇	太田勝副
〃	〃	一八、一〇	榎本宗次
〃	国史	一七、四	松尾陽吉
厚生	国文	一七、四	伊利武
〃	国史	一六、四	目崎徳衛
〃	仏文	一七、一〇	三富功
〃	〃	一八、一〇	松下和則
保健	心理	一九、一〇	草川誠
青年学校	倫理	一八、一〇	天谷正
会計	国文	一八、一〇	大矢武師
〃	心理	一九、一〇	高澤俊雄
〃	英文	一七、一〇	中村喜夫

配属課名	学科名	入学年度	氏名
会計	独文	一九、一〇	村田宇兵衛
〃	美学	一七、一〇	住友望
資材	国文	一八、一〇	安井元久
〃	支哲文	〃	内田一郎
〃	〃	一九、一〇	今村與志雄
〃	〃	一八、一〇	中里義夫
〃	東洋史	〃	遠藤滋
〃	倫理	一九、一〇	浅賀秀夫
設営	美学美史	一七、一〇	柳宗玄
〃	仏文	〃	川村克己
管理	哲学	〃	古賀照一
〃	英文	一八、一〇	郷裕弘
〃	独文	〃	今井寛
運輸	倫理	〃	板倉孝
機体総部	国文	一七、四	青木正己
〃	東洋史	一七、一〇	岡田光生
〃	心理	〃	小口忠彦
〃	英文	〃	宇佐美邦雄
〃	〃	〃	佐藤偉
発動機総部	〃	〃	石田仁
〃	独文	一六、四	福原甫

二十五日　「東京帝国大学文学部学生取扱ニ関スル件」決定ス

昭和二十年二月

一　日　倫理学科　昭和十八年入学　浅野一郎入所　部長室配属

美学科　昭和十七年入学　住友　望入所　経理課配属

五　日　独文学科　昭和十八年十月入学　關　楠生入所　庶務課配属

七　日　社会学科　昭和十七年十月入学　吉田基二入所　企画課配属

十　日　倫理学科　昭和十七年入学　赤澤正敏入所　運輸課配属

十二日　英文学科　昭和十七年十月入学　國枝武次郎入所　経理課配属

十七日　英文学科　昭和十七年十月入学　宇佐美邦雄入所　機体総部々品配属

前十六日ニ引続キ艦載機帝都並ニ帝都周辺ヲ空襲、三鷹研究所発動機総部試作本館西方投弾犠牲者工員四名ヲ出セルモ隊員ニハ事故無シ

二十日　国文学科　昭和十九年十月入学　黒野郷八郎入所　企画課配属

二十三日　倫理学科　昭和十八年入学　伊澤純入所　運輸課配属

二十四日　金子助教授外二名勤労倫理調査ノ為来訪飛行機総部、発動機総部所属、技手補、組長、伍長約十五名ト懇談活発真摯ナル議論ヲ展開ス

二十八日　同所動員中ナリシ各種学校、学徒ヲ結集シ国難打開ヘノ学徒隊ヲ結成シ全国ヘノ口火タラントノ主旨ノモトニ内木隊長其ノ第一段階トシテ文学部勤労報国隊ノ結集ヲ図レドモ議論百出シ不成功

東京帝国大学文学部勤労報国隊腕章着用決定ス

昭和二十年三月

一　日　国史学科　昭和十六年四月入学　目崎徳衛　腸捻転ノ為入院

七　日　報国隊組織決定センガ為隊員総務本館監理官室ニ集合、倫理学科　昭和十七年十月入学　勤労課　虎岩清和起案草稿発表セルモ反対論アリ決定ヲ見ズ

十　日　国文学科　昭和十八年十月入学　資材課　安井元久入営ノ為動員解除　仏文学科　昭和十七年入学　厚生課三富功健康上ノ理由ニ依リ中島飛行機株式会社三島製作所庶務課ヘ分遣ス

十一日　国史学科　昭和十八年十月入学　企画課　黒住武同所東北地区疎開準備ノ為単身岩手県和賀郡黒沢尻町ニ赴キ四月十五日附東北分廠企画課転勤

十二日　東京帝国大学文学部配属将校木戸大佐、隊員ノ勤労状況視察ノ為来鷹各職場視察後監理官室ニ於テ訓辞激励

十四日　国史学科　昭和十八年十月入学　企画課　菱刈隆永東

北地区疎開拡充計画基礎調査ノ為東北ヘ出張

十五日　国文学科　昭和十七年四月入学　厚生課　伊利武ヲ隊長トナシ隊員三名三鷹研究所ヨリ分遣ノ形式ヲ以テ中島航空金属株式会社田無製作所ヘ入所（爾後隊員逐次増加シ最大員数十六名ニ及ビ六月当所ヘ配置転換セラレタル時ハ隊長以下九名ナルモ応召、入営等ニ依リ動員解除セラレタル者ノ氏名ニ関シテハ名簿焼失ノ為不明）当初隊員氏名左ノ如シ

配属先	学科名	入学年度	氏名
企画	心理	一八、一〇	安倍北夫
勤労	教育	〃	冠郁夫
〃	国文	〃	和田正武

三鷹研究所東北地区疎開ニ伴ヒ運輸課強化セラレ隊員一部転換セル者有リ

移動セシ者左ノ如シ

新所属	学科名	入学年度	氏名	旧所属	備考
企画	倫理	一八、一〇	浅野一郎	部長室	
勤労	国文	一九、一〇	黒野郷八郎	企画	部長室ニ所属セシコトアリ
厚生	独文	一七、四	是枝達郎	部長室	
運輸	国文	一八、一〇	今井源衛	部長室	企画課ニ所属セシコトアリ
〃	心理	一七、一〇	大田順副	勤労	
〃	国史	一八、一〇	榎本宗次	〃	

十九日　別途隊員当所ヨリ分遣ノ形式デ中島飛行機株式会社本社（東京都目黒区駒場）ヘ動員ノ事アルモ實施セズ

二十日　支哲文学科　昭和十九年十月入学　資材課　今村與志雄　独文学科　昭和十八年十月入学　管理課　今井寛

右両名入営ノ為動員解除

二十六日　第一回進空式昭和十六年十二月八日三鷹研究所鍬入レ式後始メテ試作二機種初飛行ヲナス、祝賀会ヲ催ス

三十日　英文学科　昭和十七年十月入学　経理課　國枝武次郎　心理学科　昭和十九年十月入学　経理課　高澤俊雄

右両名東北地区疎開拡充促進ノ為岩手県和賀郡黒沢尻町ニ派遣転勤セラル

三十一日　哲学科　昭和十六年四月入学　勤労課　斎藤健

東北地区疎開拡充計画促進ノ為岩手県和賀郡黒沢尻町ニ派遣転勤セラル

昭和二十年四月

一日　中島飛行機株式会社国営ニ移管サル

旧工場名	所在地	正式名称	通称号
三鷹研究所飛行機総部	東京都北多摩郡三鷹町大沢	第一軍需工廠第二十一製造廠	皇国第三〇四五工場
〃	岩手県和賀郡黒沢尻町本町	〃	東北神第一八一工場
〃	岩手県江刺郡岩谷堂町	〃	東北神第一八〇工場
〃	岩手県胆沢郡水沢町	〃	〃
〃	秋田県平鹿郡横手町	〃	東北神第一八三工場
三鷹研究所発動機総部	東京都北多摩郡三鷹町大沢	第一軍需工廠第二十二製造廠	皇国第八六一工場
三島製作所	静岡県三島市谷田	第一軍需工廠第二十四製造廠	皇国第一〇四工場
田無製作所	東京都西多摩郡田無町	田無製作所	皇国第一四一四工場
宇都宮製作所	栃木県宇都宮市西原町	第一軍需工廠第四製造廠	皇国第一八一四工場

当所総務部ハ従業員全員飛行機総部発動機総部ニ分割セラレ解体セルモ配属隊員ハ未ダ分割セラレズ

社会学科　昭和十八年十月入学　企画課稲葉博文　東北地区疎開拡充計画促進ノ為岩手県和賀郡黒沢尻町ニ派遣転勤セラル

二　日　国史学科　昭和十八年十月入学　企画課菱刈隆永　東北出張ヨリ帰還

英文学科　昭和十七年十月入学　経理課國枝武次郎　東北神第一八一工場（黒沢尻）ヨリ岩手県江刺郡岩谷堂町東北神第一八〇工場ヘ転勤

心理学科　昭和十九年十月入学　経理課高澤俊雄　東北神第一八一工場（黒沢尻）ヨリ秋田県平鹿郡増田町東北神第一八三工場ヘ転勤

四　日　軍需省ヨリ三鷹研究所ニ対シ疎開ヲ命ゼラル

五　日　独文学科　昭和十九年十月入学　経理課　村田宇兵衛入営ノ為動員解除

八　日　倫理学科　昭和十八年十月入学　勤労課　長戸路千秋応召ノ為動員解除

九　日　東洋史学科　昭和十八年入学　資材課　遠藤滋　応召ノ為動員解除

十　日　独文学科　昭和十七年十月入学　防衛課　村井欣太郎入営ノ為動員解除

十一日　社会学科　昭和十八年十月入学　企画課稲葉博文　東北神第一八一工場（黒沢尻）ヨリ岩手県胆沢郡水沢町東北神第一八〇工場ヘ転勤

十五日　倫理学科　昭和十七年十月入学　勤労課　内木健夫隊長　応召ノ為動員解除

哲学科　昭和十六年四月入学　勤労課（黒沢尻）齋藤健東北地区疎開状況報告並ニ事務連絡ノ為上京

十六日　国史学科　昭和十八年十月入学　企画課　菱刈隆永岩手県和賀郡黒沢尻町東北神第一八一工場ヘ転勤

二十日　国史学科　昭和十七年十月入学　勤労課　松尾陽吉
二代隊長就任
二十七日　国史学科　昭和十八年十月入学　企画課（黒沢尻）菱
刈隆永　事務連絡ノ為上京
二十八日　哲学科　昭和十六年四月入学　勤労課（黒沢尻）齋藤
健　退京帰還

昭和二十年五月

一　日　独文学科　昭和十八年十月入学　宮川聖之助入所　経
理課配属
二　日　倫理学科昭和十七年十月入学　勤労課　虎岩清和　肺
浸潤ノ為大東亜中央病院ヘ入院
四　日　国史学科　昭和十九年十月入学　企画課　永井秀夫
岩手県和賀郡黒沢尻町東北神第一八一工場転勤
社会学科　昭和十七年十月入学　企画課　稲葉博文
疎開進渉状況報告ノ為上京
六　日　西洋史学科　昭和十九年十月入学　藤原浩入所　運輸
課配属
七　日　心理学科　昭和十七年十月入学　運輸課太田順副　病
気ノ為動員解除　学内動員ヘ配置転換
哲学科　昭和十七年十月入学　管理課　古賀照一（応
召帰還後）病気ノ為動員解除　学内動員ヘ配置転換
十　日　英文学科　昭和十八年入学　管理課　郷裕弘　病気ノ
為動員解除　学内動員ニ配置転換
十一日　松尾隊長事務多忙ノ為補佐機関トシテ幹部制敷カル
十二日　社会学科　昭和十八年十月入学　企画課（水沢）稲葉
博文　退京帰還
十三日　英文学科　昭和十七年十月入学　経理課（岩谷堂）國
枝武次郎　経理課事務打合セノ為上京
十五日　四月一日当研究所国営移管ニ伴ヒ隊員飛行機総部、発
動機総部ニ再配置セラル再配置左ノ如シ

機体総部

所属	学科	入学年度	氏名
企画	社会	一七、一〇	吉田基二
〃	倫理	一八、一〇	浅野一郎
〃	国史	〃	黒住　武
〃	〃	〃	菱刈隆永
〃	社会	〃	稲葉博文
〃	国史	一九、一〇	永井秀夫
勤労	哲学	一六、四	齋藤　健
〃	英文	一七、一〇	佐藤　偉
厚生	国史	〃	目崎徳衛
運輸	倫理	〃	赤澤正俊
〃	国文	一八、一〇	今井源衛
営繕	美学	一七、一〇	柳　宗玄
整理	国文	一八、一〇	大矢武師

整理	英文	一八、一〇	中村喜夫
経理	〃	一七、一〇	國枝武次郎
〃	心理	一九、一〇	高澤俊雄
調弁	支哲	一八、一〇	内田一郎
青校	倫理	〃	天谷　正
部品	英文	一七、一〇	宇佐美邦雄
組立	国文	一七、四	青木克己
多摩工場	心理	一七、一〇	小口忠彦
〃	東洋史	〃	岡田光生

計二十二名

発動機総部

所属	学科	入学年度	氏名
庶務	独文	一八、一〇	關　楠生
〃	教育	二〇、四	小林俊雄
防衛	倫理	一七、一〇	豊福正信
勤労	国史	一七、一〇	松尾陽吉
〃	倫理	〃	虎岩清和
厚生	独文	一七、四	是枝達郎
〃	仏文	一八、一〇	松下和則
運輸	国史	〃	榎本宗次
〃	倫理	〃	井澤　純
〃	〃	〃	阪倉　孝
〃	西洋史	一九、一〇	藤原　浩

営繕	仏文	××一七、一〇	川村克己
保健	心理	一九、一〇	草川　誠
経理	美学	一七、一〇	住友　望
〃	独文	一八、一〇	宮川聖之助
設計	〃	一六、四	福原　甫
研究	英文	一七、一〇	石田　仁
勤労	国文	一九、一〇	黒野郷八郎

計十八名

爾後機体関係配属ハ「キ」発動機関係配属ハ「ハ」トス

十六日　哲学科　昭和十六年四月入学　勤労課（黒沢尻）齋藤健上京

松尾隊長東北転勤ニ伴ヒ三代隊長ニ就任事務引継キ完了ス

十八日　隊組織決定ス、齋藤隊長、伊利田無地区支隊長及ビ今井幹部ヲ伴ヒ大学当局ヘ連絡出張、動員係不在ノ為目的ヲ果サズ

十九日　伊利田無地区支隊長来鷹シ田無製作所ニ於ケル「東大学徒取扱ニ関スル件」通牒中ノ「仮入職」ナル文字ヲ指摘シ勤労学徒ナラザル取扱ニ関シ報国隊トシテノ態度決定ヲ要求ス

二十三日　齋藤隊長及国枝学徒退京帰還

独文学科　昭和十八年十月入学「ハ」庶務課　關楠生

国文学科　昭和十七年十月入学「八」勤労課　松尾陽吉
倫理学科　昭和十七年十月入学「八」防衛課　豊福正信
右三名秋田県雄勝郡湯沢町東北神第一八三工場ニ転勤
工場通称号ヲ変更シ東北神番号ヲ扶桑番号ニ改ム
関係工場番号左ノ如シ

地区名	東北神番号	扶桑番号
黒沢尻	東北神第一八一工場	扶桑第一八四工場
水沢	〃一八〇工場	〃一八九工場
岩谷堂	〃一八〇工場	〃一八八工場
横手	〃一八三工場	〃一九〇工場
湯沢		〃一七六工場

三十日

勤労	倫理	一九、一〇	伊藤順之助
〃	社会	二〇、四	白石眞二
厚生	独文	〃	小山邦一
管理	仏文	一九、四	金田達雄
調弁	倫理	〃	大村正雄
〃	仏文	二〇、四	田中貴美夫
研究	独文	一七、一〇	嶋中鵬二
〃	言語	二〇、四	三浦朱門

昭和二十年六月
九日　新タニ第×八六一工場ニ十二名入廠ス
氏名配属左ノ如シ

所属	学科	入学年度	氏名
庶務	西洋史	二〇、四	小林義榮
〃	教育	〃	小林俊雄
〃	独文	〃	望月芳郎
防衛	哲学	〃	中村康之

十四日　倫理学科　昭和十八年十月入学「キ」青年学校配属天谷正　岩手県和賀郡岩谷堂町扶桑第一八八工場ニ転勤
十六日　仮入職問題悪化シ皇国第×一四一四工場配属学生伊利武隊長以下六名退職
六名皇国第×三〇四五工場ニ入廠　氏名左ノ如シ

所属	学科	入学年度	氏名
勤労	国文	一七、四	伊利　武
企画	心理	一八、一〇	安倍北夫
勤労	国文	〃	和田正武
〃	〃	〃	久保島繁夫
調弁	教育	一八、一〇	冠　郁夫
勤労	国文	一九、一〇	小林　正

伊利隊長幹部トナル

二十日　教育学科　昭和十八年十月入学「キ」冠郁夫　入営ノ為動員解除

二十一日　哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課　斎藤健、秘書高橋玲子ト共ニ上京ス

文学部勤労動員係中村助教授来鷹、石井企画課長並ニ斎藤隊長ト本年十月動員満期後ノ処置ニ就キ協議シ延期継続ト決定ス

独文学科　昭和十七年四月入学　白鳥郁郎

皇国第三〇四五工場入廠　勤労課配属

二十二日　独文学科　昭和十八年十月入学　池田　重

皇国第三〇四五工場入廠　勤労課配属

二十三日　西洋史学科　昭和十九年十月入学　小杉山　清

皇国第三〇四五工場入廠　勤労課配属

支郡哲文学科　昭和二十年四月入学　鈴木忠雄

東洋史学科　昭和十七年入学　萩原弘明

右両名皇国第八六一工場入廠　前者ハ防衛課、後者ハ勤労課ニ配属、文学部勤労動員係中村助教授来鷹、総務部本館会議室ニ於テ中村助教授ヲ囲ミ同地区配属隊員ノ懇談会ヲ行フ、其ノ結果同三鷹地区ニ於ケル学生回覧板ノ発行ヲ決定ス

先ニ病気入院中ナリシ倫理学科「ハ」勤労課虎岩清和ニ対シ入院経費補充ノ為援助資金（一人五円）徴収ヲ決定ス

二十六日　心理学科　昭和十八年十月入学「キ」企画課　安倍北夫　岩手県和賀郡黒沢尻町扶桑第一八四工場ニ転勤

二十八日　国史学科　昭和十九年十月入学　飯田肇　皇国第八六一工場入廠　勤労課配属

三十日　倫理学科　昭和十九年入学「ハ」勤労課　伊藤順之進

国文学科　昭和十九年入学「ハ」勤労課　黒野郷八郎

右両名入営ノ為動員解除

昭和二十年七月

二　日　文学部勤労係中村助教授来鷹、東京帝国大学勤労報国隊常勤教授トシテ就任ス関係部課長ニ斎藤隊長紹介ノ下ニ就任挨拶

五　日　哲学科　斎藤健、秘書高橋玲子ヲ伴ヒ岩手県和賀郡黒沢尻町ニ帰還

心理学科　昭和十九年十月入学「キ」経理課　高澤俊雄事務連絡ノ為上京

七　日　国史学科　昭和十七年十月入学「キ」厚生課　目崎徳衛　腸捻転再発加療中ノ所学内動員ニ配置転換トナリ動員解除セラル

十四日　国史学科　昭和二十年四月入学　橋本正一　皇国第三〇四五工場入廠、保健課配属

十五日　仏文学科　昭和二十年四月入学「ハ」調弁課　田中貴美夫　入営ノ為動員解除

十六日
独文学科　昭和十七年四月入学「キ」勤務課　白鳥郁郎
独文学科　昭和十八年十月入学「ハ」管理課　宮川聖之助
右両名秋田県平鹿郡横手町扶桑第一九〇工場ニ転勤
心理学科　昭和十九年十月入学「キ」経理課高澤俊雄
退京帰横

十八日
心理学科　昭和十八年十月入学「キ」企画課　安倍北夫
家庭上ノ都合ニ依リ帰京

二十日
西洋史学科　昭和二十年四月入学「キ」勤務課　小杉山　清
倫理学科　昭和十八年十月入学「ハ」運輸課　井澤　純
言語学科　昭和二十年四月入学「ハ」研究部　三浦朱門
国史学科　昭和十八年十月入学「ハ」運輸課　榎本宗次
右四名入営ノ為動員解除

二十一日
哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課齋藤健　秋田地区隊員視察ノ為秋田県雄勝郡湯沢町扶桑第一七六工場ニ出張ス
佐藤豊治（ヰ）（学科名、入学年度不明）ノ扶桑第一七六工場入廠後三日ニシテ応召ノ為動員解除セラレタル報告ヲ受ク

二十二日
独文学科　昭和十七年四月入学「キ」勤労課（横手）
白鳥郁郎
独文学科　昭和十八年十月入学「ハ」管理課（横手）
宮川聖之助
右両名弘前ヲ経テ上京ス

二十三日
心理学科　昭和十九年十月入学「キ」経理課（横手）
高澤俊雄　入隊通知ヲ受ケ秋田県横手町ヨリ東京ニ帰ル　動員解除セラル
哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課　齋藤健
秋田県湯沢町ヨリ岩手県黒澤尻町ニ帰ル
独文学科　昭和十八年十月入学「キ」勤労課　池田重
岩手県和賀郡黒沢尻町扶桑第一八四工場ニ転勤
心理学科　昭和十八年入学「キ」企画課（黒沢尻）安倍北夫　退京帰黒始メテ三鷹松下支隊長ヨリノ七月中動員経過報告並ニ会計報告ヲ齎ラス

二十五日
国史学科　昭和十九年十月入学「キ」企画課（黒沢尻）
永井秀夫　七月十九日三鷹総務本館焼失セル為其ノ前後処置ノ為上京
美学科　昭和十七年十月入学　柳宗玄　病気ノ為動員解除、学内動員ニ配置転換

二十六日
哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課（黒沢尻）
斎藤健上京、三鷹地区隊員ノ不満ヲ聞キ幹部ト種々協議ス
国文学科　昭和十八年十月入学　今井源衛幹部　対策トシテ農耕作業ヲ提唱ス
文学部動員係中村助教（ママ）授来鷹東大生動員ニ関スル学徒隊長トシテノ希望（東北地区隊員増員ニ対スル半強制的措置）ヲ聴取

二十七日

二十八日　支那哲文学科　昭和十八年十月入学　皇国第一八一四工場勤務　中里義夫、宇都宮ヨリ三鷹ニ来リ同工場ニ於ケル学徒隊結成ヲ報ジ学徒管理ノ為隊長ノ応援ヲ乞フ

倫理学科　昭和二十年四月入学　進藤稚郎　皇国三〇四五工場入廠　機体運輸課ニ配属セラル

三十日　倫理学科　昭和十七年十月入学「キ」運輸課　赤澤正敏　病気ノ為動員解除、学内動員ニ配置転換

昭和二十年八月

一　日　独文学科　昭和十七年四月入学「キ」勤労課（横手）白鳥郁郎

独文学科　昭和十八年十月入学「キ」勤労課（横手）宮川聖之助

右両名退京帰黒ス

二　日　哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課　齋藤　健

国史学科　昭和十九年十月入学「キ」企画課　永井秀夫

右両名退京帰黒

十　日　岩手県和賀郡黒沢尻町本町第一軍需工廠第二十一製造廠第四四一分廠（扶桑第一八四工場）ハ第一軍需工廠第二十一製造廠本部トナリ元第二十一製造廠（皇国第三〇四五工場）ハ第二十一製造廠東京出張所トシテ存続シ茲ニ第二十一製造廠ノ東北疎開計画ハ一応ノ完成ヲ見タリ。猶称号ハ従前ノ通リ呼称セラル

十三日　仏文学科　昭和十八年十月入学「ハ」厚生課　松下和則　松本市出張ヨリ帰京ス

十四日　大東亜戦争終結ニ関スル大詔渙発セラル

十五日　哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課（黒沢尻）齋藤　健　扶桑第一七六工場勤労隊員ニ対シ今後ノ行動ニ関シ指示ヲ与フ

十六日　哲学科　昭和十六年四月入学「キ」勤労課（黒沢尻）齋藤健　秋田県湯沢町ヨリ帰黒

独文学科　昭和十八年十月入学「キ」勤労課（黒沢尻）池田重　大学当局ノ指示ヲ仰グ為上京ス

十七日　隊長指令ヲ発ス　内容左ノ如シ

一、題目「敗戦ニ関スル批判」論文提出ノ事

一、右批判ノ限界ハ配属職場トス

一、提出期日ハ本年九月十五日

一、提出先ハ所属各部企画課長

十八日　国史学科　昭和十八年十月入学「キ」企画課（黒沢尻）菱刈隆永

心理学科　昭和十八年十月入学「キ」企画課（黒沢尻）安倍北夫

右両名上京ス

十九日　国史学科　昭和十八年十月入学「キ」企画課（黒沢尻）黒住　武上京ス

二十日　独文学科　昭和十七年四月入学「キ」勤労課（横手）

白鳥郁郎上京ス
東京出張所関口守次氏ト中村助教授ト協議シ本日ヲ以テ三鷹地区隊員ハ動員解除、復学ス

二十三日　独文学科　昭和十八年十年入学「キ」勤労課（黒沢尻）
池田重退京帰黒、其ノ際東京出張所関口事務長本月二十一日発勤労課吉田主事宛「戦争終結ニ伴ヒ帝大学徒動員解除ニ関スル件」通牒ヲ齎ス

二十五日　心理学科　昭和十八年十月入学「キ」企画課（黒沢尻）
安倍北夫帰黒、其ノ際本月二十五日文学部勤労動員係中村助教授発、文学部勤労報国隊隊長斎藤健宛「戦争終結ニ伴ヒ帝大学徒動員解除ニ関スル件」通牒ヲ齎ス
第一軍需工廠第二十一製造廠（皇国第三〇四五工場、扶桑第一八四工場、扶桑第一八九工場、扶桑第一九〇工場ヲ含ム）解散シ同廠配属勤労報国隊ノ動員解除セラル

二十六日　第一軍需工廠第二十二製造廠（皇国第八六一工場、扶桑第一七六工場ヲ含ム）第四製造廠（皇国第一八一四工場）第二十四製造廠（皇国第一〇四工場）解散シ同廠配属勤労報国隊ノ動員解除セラル

以上

（ロ）各地区経過報告

本報国隊ハ三鷹、岩手、秋田、三島、宇都宮ノ各地区ニ分散セルモ戦争終結後ノ連絡不充分ノ為此処ニ一括報告シ得ザリシ事ヲ悔ム

岩手地区経過報告

一、秋田県横手地区ヲ含ム
二、同地区ハ飛行機総部関係一部トス

昭和二十年三月

十一日　企画課黒住武（国史）岩手県和賀郡黒沢尻町ニ疎開事務進捗担当ノ為出張事務一般（企画、庶務、経理、厚生）ノ補佐ヲ為ス　疎開ニ於ケル秘密性保持ノ為ニ当地区ニ於テハ角帽並ニ報国隊腕章禁止サレル

十九日　企画課菱刈隆永（国史）秋田県ヲ経黒沢尻ニ到着各地区（岩谷堂、十文字、花巻、増田）状況ノ視察調査ヲナス
黒住、菱刈共ニ三月二十六日ヨリ三十一日ニ渡ル軍需省東北軍需監理部係官一行ノ視察調査ノ準備ヲ為ス

三十日　経理課國枝武次郎（英文）経理課高澤俊雄（心理）経理事務促進ノ為黒沢尻ニ転勤

三十一日　勤労課斎藤健（哲学）勤労事務促進ノ為黒沢尻ニ転勤
当地区ハ建設当初ニテ各課事務分担一定セズ専ラ各事務所賃貸借契約ニ従事ス

昭和二十年四月

一　日　夜企画課西村主事ノ主催ニ依リ黒金屋ニテ学生一同（齋藤、黒住、國枝、高澤、菱刈）会食

二　日　企画課稲葉博文（社会）事務促進ノ為黒沢尻ニ出張
企画課菱刈隆永（国史）調査報告ノ為帰京

黒沢尻経理課國枝武次郎岩谷堂工場転勤　経理出納係ニ就事ス

黒沢尻経理課高澤俊雄増田工場（秋田県）転勤　経理、勤労、厚生各班事務ニ就事ス

十一日　黒沢尻企画課稲葉博文水沢工場ヘ転勤　企画ヲ主務トシ勤労、厚生各事務ニ就事ス

十五日　黒沢尻勤労課斎藤健　状況及事務連絡ノ為上京ス

十六日　企画課菱刈隆永（国史）黒沢尻ニ転勤

十九日　黒沢尻企画課黒住武（国史）菱刈隆永（国史）艤装部隊宿舎ノ件ニテ藤根ヘ出張

二十七日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）事務連絡ノ為上京

二十八日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）退京帰黒

三十日　勤労課高橋玲子、斎藤健（哲学）ノ秘書トナル

昭和二十年五月

四　日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）高橋秘書ヲ伴ヒ四日間ノ予定ニテ疎開進捗状況調査ノ為出張

企画課永井秀夫（国史）黒沢尻ニ転勤

黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）退京、帰黒

水沢企画課稲葉博文（社会）状況報告ノ為上京

八　日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）永井秀夫（国史）状況調査ノ為水澤、岩谷堂ヘ出張

九　日　東京三鷹勤労課松尾隊長ヨリ黒沢尻勤労課斎藤健ノ下ニ隊長委任ノ電報来ル

十二日　水沢企画課稲葉博文（社会）退京帰還

十三日　岩谷堂経理課國枝武次郎（英文）経理課事務打合セノ為上京

十六日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）隊長事務引継ギノ為上京

二十三日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）退京帰黒

岩谷堂経理課國枝武次郎（英文）退京帰還

二十七日　横手経理課高澤俊雄（心理）来黒　斎藤、黒住、菱刈、永井、高澤会合其ノ際角帽ヲ被ル事ニ定ム

二十九日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）黒沢尻企画課黒住武（国史）菱刈隆永（国史）永井秀夫（国史）水沢企画課稲葉博文（社会）人員計画樹立ノ為活動ヲ開始

昭和二十年六月

五　日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）勤労課整員係長吉田主事ト共ニ昭和二十年第一四半期要員計画書提出ノ為岩手県庁ニ出頭

十一日　黒沢尻企画課黒住武（国史）菱刈隆永（国史）企画課企画係長高野主事補ト共ニ岩手県、秋田県地区現況報告書作成暁ニ及ブ

十三日　黒沢尻企画課黒住武（国史）永井秀夫（国史）疎開進捗状況報告書提出ノ為岩手県庁ニ出頭

十四日　勤労課天谷正（倫理）勤労事務（青年学校）進捗ノ為黒沢尻ニ転勤

十七日　黒沢尻勤労課天谷正（倫理）岩谷堂工場ヘ転勤　青年

学校教官トナル

十八日　黒沢尻企画課黒住武（国史）菱刈隆永（国史）永井秀夫（国史）企画課員ト共ニ徹夜キ一一五生産実行計画書作成

十九日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）高橋秘書ト共ニ十八日黒沢尻国民勤労動員署ニ於ケル調査ニ引継キ花巻国民勤労動員署ニ赴キ要員計画再編成資料聚集調査

二十日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）高橋秘書ヲ伴ヒ上京

二十六日　企画課安倍北夫（心理）黒沢尻ニ転勤

二十八日　黒沢尻企画課黒住武（国史）永井秀夫（国史）現況調査ノ為水沢、岩谷堂ニ出張

昭和二十年七月

五　日　黒沢尻企画課黒住武（国史）永井秀夫（国史）安倍北夫（心理）菱刈隆永（国史）感謝式準備ノ為報告書作成深夜ニ及ブ　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）高橋秘書ト共ニ退京帰黒

六　日　横手経理課高澤俊雄（心理）事務連絡ノ為上京

七　日　黒沢尻国民学校講堂ニ於テ扶桑第一八四工場感謝式挙行サル

十　日　黒沢尻企画課安倍北夫（心理）花巻地区第二次拡充計画樹立ノ為出張宿泊ヲ為シ山野ヲ調査ス

三鷹勤労課虎岩清和（倫理）病気入院経費軽減ヲ目的トシ東北地区隊員ニ対シ援護金募集ノ通牒ヲ発ス

東北地区隊員増強ノ準備トシテ「学生寮設置依頼ノ件」通牒ヲ宇佐美総務部長ニ対シ発ス

十三日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）企画課長石井主事補佐トシテ横手ヘ長期出張

十六日　勤労課白鳥郁郎（独文）管理課宮川聖之助（独文）横手（扶桑第一九〇工場）ニ転勤

横手経理課高澤俊雄（心理）退京帰還

二十日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）人員調査ノ為横手、十文字、増田ヘ出張　湯沢地区松尾陽吉（国史）豊福正信（倫理）ト連絡

二十二日　横手経理課高澤俊雄（心理）入営ノ為帰京

二十三日　勤労課池田重（独文）黒沢尻ニ転勤、学徒係担当

黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）秋田県ヨリ帰黒

二十五日　黒沢尻企画課永井秀夫（国史）三鷹総務本館焼失ニ依ル善後処置連絡ノ為上京

二十六日　黒沢尻勤労課齋藤　健（哲学）上京

昭和二十年八月

二　日　黒沢尻勤労課斎藤健（哲学）黒沢尻企画課永井秀夫（国史）退京帰黒

四　日　横手ヨリ帰黒ノ石井企画課長ヲ囲ミ学生一同（齋藤、黒住、菱刈、稲葉、永井、安倍、池田）菊池屋ニ会合キ〇〇号月産〇〇機最後企画ヲ隊員ノミノ手ニ依ツテ成サンガ為石井企画課長ヲ＊頭トナシ齋藤隊長副＊頭

トナリ東北在勤全隊員ヲ結集シ完了ニ至ル迄ノ長期合宿ノ議起リ具体策決定開始期日ヲ本月二十日トナス

五　日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）横川目ノ地下工事視察ノ上横手帰還

八　日　横手勤労課白鳥郁郎（独文）宮川聖之助（独文）横手、増田十文字ノ現況調査ヲ開始

九　日　十日、黒沢尻、水沢、岩谷堂、横手ニ艦載機来襲各地区被害アルモ学生一同無事

十四日　黒沢尻勤労課齋藤健（哲）黒沢尻企画課永井秀夫（国史）安倍北夫（心理）現況調査ノ為横手出張

十五日　黒沢尻勤労課齋藤健（哲学）横手勤労課白鳥郁郎（独文）宮川聖之助（独文）湯沢へ連絡ノ為出張
正午、各人所在ノ地ニテ玉音拝聴

十六日　黒沢尻勤労課　齋藤健（哲学）帰黒ス
岩谷堂経理課　國枝武次郎（英文）天谷正（倫理）来黒

黒沢尻勤労課池田重（独文）大学ノ指示ヲ仰グ為上京

十七日　夜学生一同（齋藤、黒住、菱刈、永井、安倍、白鳥、宮川）題目「敗戦ニ対スル批判」論文提出ニ関スル指令ヲ発ス

十八日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）安倍北夫（心理）大学ト連絡ノ為上京

十九日　黒沢尻企画課黒住武（国史）公用ニテ上京

二十日　横手勤労課白鳥郁郎（独文）状況視察ノ為上京

二十三日　黒沢尻勤労課池田重（独文）退京帰黒、三鷹地区隊員ノ本月二十日附動員解除ノ報告アリ又二十一日附東京出張所関口事務長発勤労課吉田主事宛「戦争終結ニ伴ヒ帝大学徒動員解除ニ関スル件」通牒ヲ齋ス

二十五日　黒沢尻企画課安倍北夫（心理）退京帰黒、本月二十二日附文学部勤労動員係中村助教授発齋藤隊長宛「戦争終結ニ伴ヒ帝大学徒動員解除ニ関スル件」通牒ヲ齋ス
扶桑第一八四工場解散式挙行サル依ツテ動員解除トナル

昭和二十年九月

一　日　秋田県増田ニ隊員慰労会開催
出席者（齋藤隊長、安倍、池田、宮川、白鳥、豊福、關、松尾）

二　日　齋藤隊長、白鳥、宮川ノ下宿先秋田県平鹿郡増田町本町益子氏訪問謝礼ヲナス　更ニ湯沢ニ赴キ松尾、豊福、関ノ下宿先秋田県雄勝郡湯沢町最上氏ヲ訪問謝礼ヲナス
同日扶桑第一七六工場内藤事務長、工藤工場長、●経理係長ニ挨拶ヲ為ス

三　日　扶桑第一九〇工場谷田工場長、諏訪経理課長、枝川勤労係長、立田中尉ニ挨拶ヲ為シ帰黒ス　岩谷堂國枝武次郎（英文）論文提出ノ為上京

四　日　黒沢尻企画課黒住武（国史）菱刈隆永（国史）退京帰

黒受験カード持参直チニ各隊員ニ配布

七　日　齋藤隊長金ヶ崎町ニ赴キ永井、稲葉ノ下宿先、岩手県胆沢郡金ヶ崎町小笠原氏ヲ訪問謝礼ヲ為ス

水沢町ニ赴キ扶桑第一八九工場浜田事務長、大●●工場長ニ挨拶ヲ為ス　岩谷堂勤労課天谷正（倫理）福島県相馬郡中村町ニ帰省

八　日　米国官憲資料隊員一同ニテ作成ス

十一日　菱刈、黒住、永井、安倍、池田、齋藤、受験カード発送

十二日　横手勤労課宮川聖之助（独文）私用ニテ弘前ニ赴ク

十三日　水沢企画課稲葉博文（社会）帰省ニ先立チテ挨拶ノ為来黒

十四日　横手勤労課白鳥郁郎（独文）来黒

夜菊池屋ニ於テ会食ス出席者（石井企画課長、齋藤、菱刈、永井、池田、白鳥）

十五日　岩谷堂経理課国枝武次郎（英文）退京帰岩

十六日　平泉ニ清遊　参加者氏名

石井企画課長、勤労課秋葉巴、貫井タニセ、企画課米谷園子　金矢千里、川野澄子、吉田顕子、勤労課高橋玲子。齋藤、菱刈、永井、池田、白鳥

十七日　齋藤、菱刈、池田、永井岩谷堂ニ赴キ國枝武次郎（英文）下宿先岩手県江刺郡岩谷堂町菊池萬蔵氏　天谷正（倫理）下宿先岩手県江刺郡岩谷堂町北新町佐藤勝氏ヲ訪問謝礼ヲ為ス　扶桑第一八八工場吉新事務長　荒木職場長ニ挨拶ヲ為サントスルモ不在ナリキ

十八日　宮川聖之助（独文）弘前ヨリ増田ヘ帰還

白鳥郁郎（独文）黒沢尻ヨリ増田ヘ帰還

二十日　黒沢尻企画課菱刈隆永（国史）秋田ヲ経テ上京

齋藤隊長、黒住武（国史）、菱刈隆永（国史）ノ下宿先、岩手県和賀郡鬼柳村下鬼柳高橋藤八氏ヲ訪問謝礼ヲ為ス

同日安倍北夫（心理）下宿先、岩手県稗貫郡湯口村上頼子鬼屋敷藤原氏訪問謝礼ヲ為ス

二十一日　齋藤隊長、池田重（独文）下宿先岩手県和賀郡新富町齋藤●氏訪問謝礼ヲ為ス

二十二日　第一軍需工廠第二十一製造廠小山廠長、森試作部長、松田次長、宇佐美総務部長、細井事務長、石井企画課長、下山営繕課長、吉田勤労課整員係長、管理課●主事、小野寺主事補、厚生課丸山主事ニソレゾレ挨拶

二十三日　齋藤隊長、黒住、永井、安倍、池田、離黒。白鳥、宮川、秋田県ヲ去ル

二十五日　旧三鷹研究所第一軍需工廠第二十二製造廠総務部長、中村工作課長、第二十一製造廠東京出張所関口事務長、勤労課栗原係長ニソレゾレ挨拶ヲ為ス

二十七日　東京帝国大学文学部勤労動員係印哲中村助教授ニ齋藤隊長帰還報告。文学部戸田部長ニ齋藤隊長帰還報告斯

報告書ヲ提出

以上

六、所見

斯報告ヲ終ルニ当リ所見ヲ述べ次回動員ノ参考ニ資ス

本勤労報国隊ノ特色ハ其ノ任務ヲ会社事務部門ノ推進ニ置クニアリ　事務ハ技術ノ遂行上事業ヲ企画シ成果ヲ期ス　事務、技術両々相俟チテ不可分離ハ言ヲ俟タザルモ生産ノ昂揚ハ往々事務ノ軽視ヲ招ク、然レドモ生産能率ノ昂揚ノ基礎ハ事務分野ノ優秀ニ在リ、生産ナキ事務ハ空虚ニシテ事務ナキ生産ハ盲目ナリ、事務分野ニ動員セラルヽ者ハ此ノ認識ノ欲クベカラザル事ヲ大前提トナス

動員期間ヲ二分スレバ概ネ前半期入所隊員ヲ旧隊員トナシ後半期ニ入所セシ者ヲ新隊員トナスコトヲ得、旧隊員ノ此ノ種ノ認識ハ会社事務理解ニ対スル旺盛ナル知識欲ト当初ノ入所教育ノ適切例ヘバ勤労課ニ見ラルヽ事務予備期間中ニ於ケル会社事務ノ勉学、勤労管理ノ指導概念ノ定見獲得等ニ依リ比較的高度ナルニ反シ新隊員ニ在リテハ此ノ種ノ認識ハ分散的且不定期的ナル入所状況ニ依ル入所教育並ビニ準備期間皆無―其ノ責ハ旧隊員特ニ幹部並ビニ受入側ノ不周到性ニアリ―又主トシテ●●ナル新隊員ノ青年的妄想等ニ依リ比較的恵マレタル条件下ニアル者ヲ除キ全ク之ヲ見ズト云フモ過言ニアラズ

従ツテ其ノ具体的表レトシテハ勤務態度ノ不誠実己ノ非ヲ見ズシテ独リ受入側ニノミ其ノ難ヲ求ムル言動等ヲ挙グル事ヲ得、愛国ヲ自称セル者ノ国ヲ誤ルガ如ク表面ニ於ケル美言ノ背後ニハ利己主義的、個人主義的傾向ノ＊動スルヲ否ミ難シ、之ヲ学園生活ノ長短ヨリスレバ概シテ誤レル英雄主義的、独善的、高校生的風潮ノ濃厚ナル下級学年タル新隊員ト、大学ノ息吹ヲ経シ一見無気力ナル上級学年ノ旧隊員トニ分ツヲ得、カヽル隊員中ニ於ケル勤労態度ノ相違ハ学年等ニ依ル質ノ差トシテ止ムヲ得ザル所アリト雖モ一面ニ於テハ小泉製作所、田無製作所等ニ動員配置セラレタル学年単位的方法ノ最モ大ナル弊害ト云フベク之ノ除去法トシテハ単一工場ニ於ケル上下級学年ノ混合配置ヲ最モ適切ト思考ス、而シテ今回動員ノ隊組織ハ幸ニモ斯弊害ヲ除去スル混合配置方法ヲ攝ルト雖モカヽル弊害ノ自●ハ動員中期ニ始リ一度染リシ汚色ハ拭フニ難ク生ノ感ズル所デハ末ダ其ノ完全除去ル見ルニ至ラズ飜ツテ大学当局ノ態度ヲ考察スルモ全ク勤労動員ノ管理ニハ言及セズ其ノ実権ヲ独リ隊幹部ニ委ス、勿論大学当局ノ学生ニ対スル人格的取扱ノ現レトシテ生等其ノ真情ヲ喜トスルモ他面隊員指導ノ掌ニ当ル者ニトリテハカヽル自由主義的管理法ノ悪シキ結果●ミ当局ノ冷淡、無関心的態度ニ批判ヲナセシ事度知レズ、幸、幹部諸兄ノ奔走ニヨリ大過ナク終了セシコトヲ喜ビトス、自由主義的隊員管理ヲ東北地区派遣隊員ノ分遣動機ニ微スレバ個人的選擇ニノミソノ可否ヲ求メ動員セラレタルモ動員ノ義ヲ辨ヘズ動員ニ関シテハ学徒ニシテ学徒ニアラズ、ソノ心境従業員ニ準ズベシ、従ツテ隊員ノ自発的分遣ニ俟ツト雖モ一部命令的派遣ノ措置ヲ考

慮シテ然ル可クカカル見地ヨリ隊長ニ相当ナル命令権ヲ附与スルヲ妥当トス

飜ガヘッテ隊組織ニ於ケル経理関係ニ眼ヲ転ズレバ隊員ノ管理、大学当局ヘノ連絡、隊員各位ヘノ連絡、外部折衝ニ於ケル経費等多額出費ヲセザルヲ得ズ、生隊長トナルヤ報国隊費計上ヲ試ミ隊機密費トシテ大学当局ヘ請求スベキトコロ実現ヲ見ズカカル経費ハ隊ノ膨張ト共ニ増大シ経済的事情ノ制限ハ隊事務ノ進捗ニ支障ヲ来ス事大ト認メラル、爾後動員ノ事アルニ際シテハ経済方面ノ配慮モ与ヘラレンコトヲ翼フ

大学当局、受入側、報国隊ノ連絡ノ緊密ハ勤労動員ノ成果昂揚ノ基軸トモ云フベク戦局終結後ニ於ケル大学当局ト隊トノ連絡ハ遠隔ノ地ヨリノ再三ノ指令要請ニモカカハラズ密ヲ缺キ僅カニ連絡隊員ノ口伝ニ依ルノミ指令ハ総テ部長名文書ニ依ルベク隊機関ヲ通シテノ徹底ヲ可トス

二、三苦言ヲ呈スレバ敗戦ノ轍ハ再度踏ムベカラズ、勤労動員ノ成果ハ弥ガ上ニモ昂揚スベク敢ヘテ此ノ所見ヲ述ブル次第ナリ

斯報告書作製ニ当リテハ旧中島飛行機株式会社三鷹研究所企画課印字員吉田顕子氏、勤労課高橋玲子氏ノ多大ナル援助ヲ蒙リタル事ヲ附記ス

以上

或ル動員学徒ノ詠メル歌二首

みちのくの雪深き野を誰ゆえに
　分けてや来けむ山べ深くも

みちのくの北上川の川水の
　絶ゆる事なくものつくりてむ

〔注ホ　旧制高等学校〕